

コミュニティ活動の事業化



イラスト 小関 裕さん

先月、ある山村の町を訪れた。つい数ヶ月前まで、そこには一つの自治体があった。今でも役場の建物は残っているが、それまで当然のように存在していた町自治体によるサービスもいまはない。ずっと自分達の世話をしてくれた町の職員が、ある日いきなり目の前からいなくなってしまうというのは、住民にとってどんな気持だろうか。ここでは、かつての町自治体が合併前にNPOを立ち上げ、行政に代わって地域のことを考えるNPOを用意しておいたからまだいい。合併前に、こんな準備をして合併を迎える町はほとんど無いだろう。

最近都市の暮らしも不安が大きい。すぐ身の回りで子どもやお年寄りへのいじめや虐待があっても誰も助けられない。卑劣で残虐な事件がすぐ身の回りで起きてても、我々はただ怯えるしかない。これ以上行政や警察に期待するのは難しそうだから、自衛しなければならぬが、個人や自分の家族だけではあまりにも非力だ。様々なNPOが頑張っているが、全てに目配せできるわけではないだろう。

そこでコミュニティの力に期待が高まるが、かつての伝統的コミュニティは衰退してしまったし、もし同じような組織を再生しても、地域の人々に受け入れられそうも無いことは戦後の歴史が証明している。いま、都市も農村も新しい時代の地域課題に応えられるコミュニティを再生しなければならない。そのコミュニティ像は、地域の人々に支えられながらコミュニティサポートを事業化し、経営的にも成立するものでなければなるまい。そして、コミュニティ・センターのオフィスでは、コミュニティ事業に携わる格好の良いプログラム・オフィサーが働き、地域の皆さんと一緒に生き生きと活動しているというのはどうだろうか。

せんだい・みやぎNPOセンター 理事 山田 晴義

内容

せんだい・みやぎNPOセンターの今年の事業戦略
サポートセンター新体制へ、今年もせんだいCARES始動
センドラードサロン報告、みやぎNPO夢ファンド、BOOK、
らくだのブック、事務局活動報告、など

今年の事業戦略 <前編> 「何を重視して事業を進めるか」

土台はできた → 太らせる・強化する・成果を实らせる 方向性へ <構築期> から <展開期> への転換

2005年5月を迎え新しい事業も動きだしました。今回は、前号でお伝えしてきた「地域の支援ニーズ」を踏まえ、当センターの事業戦略「何をどう考え、戦略を生み出しているのか」をお伝えします。そして次号では具体的な事業の数々をご紹介します。

1. こんな手順で考えてきました。 (検討プロセス)

私たちせんだい・みやぎNPOセンターでは、毎年9月の総会后に、一泊二日の理事合宿を開催し、中長期的な事業戦略について話し合っています。さらに、新年度に向けた4月に「経営会議（常務理事、事務局長、次長、正副センター長）」（毎月1回開催）で議論してアイデアや環境分析を行い、4月の理事会である程度の今年の戦略（何を重視して事業を進めるか）を構想し、評議員会でも意見をいただきました。特に評議員会ではグループワークを取り入れ、ざっくばらんな意見をいただきました。

2. 私たちは現状をどう認識しているか。 (社会環境認識)

・NPO法人の真価が問われ、淘汰が始まる。

NPO法人数は2万を数え（宮城県内300超）、ますます増えつつありますが、伸び率は若干沈静化してきました。しかし、事業報告書などを提出できない法人、提出しても1枚限りの法人が多く、また悪質な法人の解散も報じられて、NPO法人の社会的信用に悪影響が出てきていることも事実です。公益法人改革の行方も油断できません。その中で私たちは、社会から求められるNPO像を明らかにし、信頼されるNPOに成長するための支援事業を強化していきます。

・協働の真価が問われ、深化が求められる。

広域合併の進展と指定管理者制度の導入に伴い、NPOと行政の協働の機会が大幅に増加しています。NPO政策も、「支援から協働へ」という流れが定着しつつあります。しかし、行政と

NPOの双方共に、まだ互いを適切に理解している人は少なく、制度の活用から真のパートナーシップへの道のりは険しいものになると予想されます。そのために、互いのセクター間の理解促進と協働のルールや評価のしくみなど、適切な協働の推進体制をつくります。

・社会環境変化とスピードは 一層激しいものになる。

広域合併に伴って自治体の数は半減することになり、今まで以上に、行政は人々にとって遠い存在になりつつあります。その中で、保健・医療・福祉の分野においては、今までにない形でのシステムの変容が起きつつあり、目が離せません。また、少子化と高齢社会の中で、団塊の世代が一気に退職する「2007年問題」も間近に迫っています。そんな中で、社会の変化にふりまわされるのではなく、社会的ニーズに敏感で、新しいサービスや課題解決の仕組みを提案できるNPOが求められていることを自覚し、取り組みを充実させたいと思っています。

3. センターの現状と展望

1997年11月設立の当センターは、今年の11月1日で8周年になります。

この数年で、当センターの民間のNPO支援センターとしてのミッション達成のための中核事業（サポート資源提供システム/みんなファンド/NPO情報ライブラリー/せんだいCARESキャンペーン等）は、ほぼ骨格が固まり、安定的な運用と拡大の時期に入っています。その強化のためには、昨年度の目標であった「社会からの支援の強化」を「協働の取り組みの強化」に転換し、企業の皆さん、NPOの皆さんと

一緒に取り組むことを目指します。また講師派遣等センターの「担い手の拡大」についても、より一層の拡大を目標にします。そのためには、組織目標に向かってスタッフ個人の成長と目標の達成を支援し、学習する組織として変革する必要があります。

仙台市のサポートセンターも同様に、管理・運営のシステムについてはほぼ確立し、スタッフが入れ替わっても順調にサービスを提供できる体制が構築できたところであり、こちらにも多様な機能の広報によって利用者の拡大とステップアップを図る時期になっています。



4. ここを重点強化します。

・みんみんファンドの

寄付者（ドナー）開発の強化

みんみんファンド（本体）および各冠ファンドの順調な運営を目指しつつ、共同募金配分金事業「寄付者（ドナー）の学校」を通して寄付文化の醸成に積極的に取り組みます。またサポート資源提供システムでの土地などの寄贈対応も推進します。

・せんだいCARESを戦略的に活用・展開

3年目を迎えるせんだいCARESキャンペーンを見直し、企業、NPO、行政、市民、学生、大学などのコラボレーションによるまちづくり活動へ成長させます。また企業の社会的責任（CSR）などに関わる取り組みの支援を通して、企業セクターの参加を一層促進します。団塊の世代のリタイア時代に備えた企業との連携・協働の可能性も追求します。シニアインターンシップの開発なども視野に入りたいものです。

・NPOの政策提案力向上と

行政側の受け入れシステムの整備

昨年「NPOが社会を変えられない5つの理由」という連続講座を行い、基礎的な準備が整った段階で、今後は地域のNPOの皆さんとの研究会や協働プロジェクト体制を試行していきます。

行政側のシステム整備も働きかけていきます。

・社会的メッセージの発信の強化

センターとしての意見を社会に発信していくため、HP等によるオピニオンの発信を通じて広報活動を強化し、顔の見えるセンターを目指します。

・他施設とのポジショニングに留意し協働を模索

他施設との関わりを強化し、指定管理者制度の導入によるNPO側の対応力向上にも取り組みます。また公共施設の市民参画型管理・運営のノウハウの提供と共同研究を推進します。骨プロ（注）による公共施設による市民発の情報発信支援の拡大にも引き続き取り組み、全国の支援センターに向けた地域支援センター運営テキストの開発など、ノウハウの提供や活用に努めます。

注：仙台の街に情報の背骨を通すプロジェクト（略称骨プロ）は、公共施設での市民発の情報発信支援を進めるプロジェクトで、2005年度より仙台市の政策として取り入れられました。

・行政の市民参加型事業のコンサルティング

ますます増える市民参加や協働事業が適切な運営をされるようなコンサルティングに力を注ぎ、NPOセクターの力がより活かされるしくみを提案していきます。

・NPOの経営能力向上支援

（相談・コンサルティング）の強化

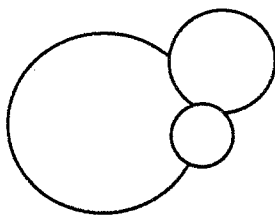
評議員会では、講座による研修から、個別団体ごとの相談・コンサルティング体制が欲しいという意見を複数の評議員の方からいただきました。NPOの経営能力の向上は、NPOが社会的に認知されればされるほどますます重要な課題となります。当センターの持つノウハウを活かして、相談・コンサルティング事業を強化します。

・センターの長期ビジョンの策定に向けた討議の継続

・センター会員制度の抜本的見直しへ向けた検討委員会の設置（1年間）

当センター設立10周年を視野に入れて、センターの長期ビジョンの策定に向けた討議に入り、あわせて会員制度の抜本的見直しの検討に取り組みます。

これらの今年の目標と方針は、私たちだけの力ではなく、当センターと各NPO、そして企業セクター、行政セクターの皆様との連携や協働の機会をより一層創出することで実現できるものと考えています。相変わらず忙しいスタッフと足りない予算のセンターですが、よろしく願いいたします。（加藤 哲夫）



仙台市市民活動サポートセンターのスタッフが新体制へ ～ センター長交代報告 と 今年の抱負 ～

平成17年4月よりサポートセンターのセンター長になりました遠藤孝志（33歳）です。前任の青木は、私が副センター長の際、的確かつ冷静な判断やアドバイスをスタッフにする、頼りになる憧れのセンター長でした。私も信頼されるセンター長を目指し、自分らしさを出しながら、日々前向きに仕事に取り組んでいきたいと思えます。

さて、昨年度のサポートセンターの状況を報告しますと、視察・見学・取材対応は、68件、432名（前年差：▲8件、+123名）でした。ご存知の通り全国各地からご来館いただいている施設です。今年度のサポートセンターのテーマは「躍動感のある施設」。先駆者としての自覚を持ちながら、サポートセンターの総合的な機能を多くの利用者に伝え、サービスを効果的に活用してもらうことに力を入れていきます。

「マウスイヤー」。マウスは人間の18倍の速さで成長するので、マウスの1年は人間の

18年に相当するそうです。「マウスイヤー」のスピードで変化している昨今、日々進化していく施設となるよう、15名のサポートセンタースタッフが力を合わせながら日々努力していきます。ご声援よろしくお願ひいたします。

（遠藤 孝志）

せんだい・みやぎNPOセンターでは、平成14年4月に市民活動支援室が本庁に戻ることを機に、サポートセンターにセンター長と副センター長を配しました。振り返れば毎年新たな取り組みの連続でした。平成16年度はサポートセンターの5周年の節目、指定管理者への移行等もありました。この3年間の経験から新体制に継ぐこと、改善できること、上手にバトンを渡していくことがこれからの役割かと感じています。今後は大町の事務所にて業務にあたります。引き続きよろしくお願ひいたします。

（青木 ユカリ）

仙台のNPOの秋が変わってきました。仙台市市民活動サポートセンターのスタッフは、このごろ「今年のせんだいCARESはいつですか」とNPO関係者からたずねられることがしばしば。先日、昨年のせんだいCARESの報告書「CARES fan（ケアーズ ファン）」のことが河北新報の夕刊で紹介されると、報告書でありながら「欲しい」という問い合わせが10件近くありました。ほかにも、知っていたらぜひ参加したかった、今年は開催時期にあわせて企画を立てたいなど、うれしい声があちらこちらから聞こえてきます。

**赤い恐竜が、
今年の秋も仙台のまちに登場！
せんだいCARES2005、
始動開始！**



このような状況のなかで、昨年の実行委員会が4月の初めに最終回を迎えたのです。が、そのまま今年の実行委員会になってしまおうという、異例の展開となりました。そこで、この秋のせんだいCARESは11月1日（火）～12月3日（土）と決めました。また、オープニングイベントは、11月5日（土）にせんだいメディアテークにて行なうことも決まりました。

5月の2回目の実行委員会では、今年はいくつかの実行委員会のメンバーにNPOや市民も参加してもらう方向で、進めることになりました。合言葉は、「企業とNPOのノウハウを実行委員会に参加して、組織や社会に生かそう」というかんじです。楽しく面白く、ためになる実行委員会が今年のせんだいCARESをどんなふうにつくり出すか。乞う、ご期待。

※第3回実行委員会は、6月1日（水）午後7時から。詳しくは、当センター内事務局まで。（担当：紅邑 晶子）

報告 センタード サロン

● 3月25日 学生団体の力で地域を元気に！～学生だからできること～

仙台は100人に7人は大学・専門学校の学生という全国有数の学都であり、市民活動にも多くの学生が活動しています。今回の「学生団体の力で地域を元気に！～学生だからできること～」は、4月の新入生の勧誘活動を直前に控え、地域社会に出て活動する仙台圏の学生団体の他、学生のボランティアに興味のある団体に集まっていただき、学生団体の活動について語り合いました。

はじめに「学生が興味あるのはどのような活動か」について議論が持ち上がり、「自分が束縛される活動は嫌」という意見がある一方「束縛かどうかではなく、

自分が参加したいという気持ちが大切」という意見もあり、分野に関わらず主体的に参加できる場を求めて参加する傾向があるようでした。その他、ミーティングの方法など団体の運営について意見交換し、それぞれの団体から参考になったという声を頂きました。今回調べてみたところ、仙台市内にある学生団体は少なくとも33団体あり、この結果にはサロンの参加者全員が驚くほどでした。今回のサロンは、他の団体の活動を知り、各団体の活動の意義を再確認し、またお互い情報交換ができるよいきっかけを作ることができました。(八田 篤司)

● 今年の「センタードサロン」は、目がはなせない！！

センタードサロンは、分野の違う市民活動団体の交流と市民活動に関心のある人たちが、様々なテーマで気軽に語り合える広場を作ろうと1996年11月からはじまったものです。毎回タイムリーなテーマを掲げ、市民活動に役立つ情報を満載して開催しています。

また、このサロンを企画するのは13名の常勤スタッフです。各回知恵を絞って面白くてためになるテーマを検討しています。「ぜひこのテーマで実施して欲しい！」というのがありましたらお気軽にご相談ください。

次回6月のセンタードサロンは2003年度に宮城県内で交付された助成金の調査・研究の成果をご披露します。民間・行政の助成担当の方、助成金に関心があるNPOのご参加をお待ちしています。

テーマ：4億4千万円のゆくえ

宮城県内NPOへの助成金の現状を報告

日時：6月24日(金) 18:30～21:00

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

参加費：1000円 定員：15名(先着順)

お問い合わせ：担当 遠藤(智)、小松

1. 平成17年度の助成事業決定。

100万円を最大3年間助成する「ステップアップ支援プログラム」については、「移動サービス・ネットワークみやぎ」への助成が決定しました。昨年度助成した「仙台夜まわりグループ」「子ども虐待防止ネットワーク・みやぎ」については、今年度も助成が継続されています。「人材育成支援プログラム」「スタートアップ支援プログラム」については、それぞれ9団体(総額129万円)、10団体(総額190万円)の助成が決定しました。今年度の特徴として、仙台市以外の地域からの応募が増加したことがあげられます。地域のNPOによる活動の着実な広がりが感じられます。詳しくは、当センターホームページをご覧ください。
<http://www.minmin.org/fund/miyagi/>

みやぎNPO夢ファンドからのお知らせ

(設置：宮城県、事務局：当センター)

公募により全国から寄せられた31点の作品の中から、夢ファンド運用委員と一般市民による投票の結果、神奈川県横須賀市の奥野和夫さんによる右の作品がロゴマークに決定しました。今後このマークは、ファンドの普及・啓発に広く活用されます。

2. ファンドの ロゴマーク決定！



みやぎNPO夢ファンド

(高田 篤)

BENYのはみ出しエッセイ ◆らくだのブクブク◆ vol.15

「仙台遺産」目線で、歩こう。

常務理事・事務局長 紅邑 晶子

代表理事の加藤哲夫氏は、NPO関係の講師として全国を飛び回っていて、たずねたことのない県を数えたほうが早いらしいです。紅邑は、東北以外の地域に出かけるのは年に5本の指で足りる程度。実は四国・九州・沖縄は、わたしがまだ上陸していない地域でした。

昨年広島にお邪魔した際、四国は松山まで足を伸ばして、ついに四国初上陸を果たしました。その衝撃は、かなりありました。目で、耳で、皮膚で感じるこのまちのサイズとリズム、町並みや建物の高さなどなど。日本の中で異国を体験している感じでした。そして街を歩くほど、このまちのNPOがどんな活動をしているか、想像を掻き立てられました。

先日、四国に2度目の上陸を果たしました。今回は高知県。プライベートで出かけたの

で、のんびり旅人気分で過ごしていました。ところが、そこに衝撃的な出会いが待ち受けていました。それは「高知遺産」という写真集(?)と「犬もあるけば、あかおカルタ」というカルタ。(これを紹介してくださいの方が、素敵なセンスの持ち主なわけです!) いずれも、合併・統合で薄まってしまいがちな地方の姿や文化をこんな形で「濃く・楽しく・知恵を使って残す」感激的な印刷物。ホントに大感激でした。

そんなわけで、ちかごろのわたしは「仙台遺産」目線で仙台の街を歩く傾向にあります。(ああ、天賞の黒堀、残したかったなあ!)

* 「高知遺産」「犬もあるけば、あかおカルタ」が知りたい方は、ぜひインターネットで調べてください。

この本は、NPOが果たすべき役割や、NPOがいかにして重要な存在であるかを、NPOに関わる人々に向けて書かれています。NPOという新しい生き方に大いなる期待をこめて、「NPOであること」の意味を確認し、活動の原点に返るのにも良い一冊です。

新しい生き方としてのNPOを提唱するにあたって、まず産業社会、資本主義社会が人々の環境や、人間関係などにもたらした光と闇について記載されています。この中では、大いなる豊かさをもたらした発展が、あまりにも経済を追求するあまり、文化や共同が隅に追いやられてきましたこと。そして敗戦後の与えられた民主主義という変化を遂げた日本での欧米との「会社」や「公共」に対する考え方の違いを比較しています。こうした状況だからこそ、日本の未来をNPO

「あまりにも経済を追求した過去があり、そこから出た問題が現在も覆っている中で、NPOという新しい生き方が必要とされている。」この本は、経済学の視点からNPOの重要性を表すために、世界の過去の記述に多くのページをさいています。このことによつて、著者は専門的なマネジメントを身に付けるよりも、より多くの時間をかけ独自のミッションを構築することの重要性を説いているのです。(門間 裕美)

BOOK

『NPOという生き方』

島田 恒 著

PHP新書 発行
七五八円(税込)

活動
報告事務局活動報告
(2005.2/21~4/20)

■事務局/自主事業関連

- ・ センター会議 (2/23 3/30)
- ・ 事業・運営会議 (第99回:2/24 第100回:3/10 第101回:3/28)
- ・ 仙台市市民活動サポートセンター全体ミーティング (3/2・9・16・23・4/8・18)
- ・ 事業・企画戦略会議 (3/17)
- ・ 理事会 (第70回:3/22 第71回:4/20)
- ・ 目標管理会議 (4/4)
- ・ 大町全体ミーティング第1回 (4/11)
- ・ 経営会議 (第1回:4/14)
- ・ PCブリッジ (4/8 遠藤)
- ・ みやぎNPO夢ファンド公開コンペ「ステップアッププログラム」(4/9 加藤・紅邑・高田)
- ・ せんだいCARES実行委員会 (4/11 紅邑)
- ・ サポート資源提供システム「パソコン贈呈式」(4/18)

■NPO/企業関連

- ・ 第12回グリーン電力基金運営委員会 (2/24 紅邑)
- ・ (特) 仙台市スポーツ連盟の体制整備に伴う研修会 (3/1 加藤)
- ・ NPOブラッシュアップセミナー新潟編/主催:(特) 日本NPOセンター (3/5 紅邑)
- ・ 「高松における市民活動の未来」/主催:高松市ボランティア・市民活動センター (3/6 加藤)
- ・ 我孫子市市民活動レベルアップセミナー/主催:我孫子市 (3/7 紅邑)
- ・ 東北放送番組審議会 (3/11・4/8 紅邑)
- ・ 「市民活動フェスティバル2005」講演/主催:福島県北ネット、福島県 (3/19 加藤)
- ・ 日本NPO学会 (3/20 加藤)
- ・ NPOづくり基礎講座「ミッションを実現するための計画・組織づくり」/主催:福島県 (3/27 紅邑・青木)
- ・ ローカルマニフェスト (4/1 加藤・紅邑)
- ・ 21世紀臨調 (4/13 加藤)

■自治体関連

- ・ 市民による百年の杜づくり講座 (2/22・3/1・8・22 青木・佐藤)
- ・ クリーン仙台推進員研修会/主催:仙台市 (2/22 加藤)
- ・ 地球環境基金評価専門委員会 (2/22・23 加藤)
- ・ 産学官連携学生会「100プロ」(2/24 遠藤)

- ・ 仙台市花と緑のアドバイザー養成講座フォローアップ講座/主催:(財) 仙台市公園緑地協会 (2/24 青木)
 - ・ 「ちかごろのNPO事情と行政との新しい関係について」/主催:利府町 (2/25 紅邑)
 - ・ 災害フォーラム (2/26 青木・八田・渡辺)
 - ・ 市民トラストの森/主催:仙台市 (2/26・3/12・13 青木・佐藤)
 - ・ 第2回NPOフォーラム in やちよ/共催:NPOフォーラム in やちよ実行委員会、八千代市 (2/26 加藤)
 - ・ 利府町町民活動団体研修会 (3/4 紅邑)
 - ・ 第2回ボランティアフォーラム/主催:仙台市太白区社会福祉協議会 (3/8 青木)
 - ・ コミュニティビジネス開発講座サロン (3/10 加藤)
 - ・ 仙台市杜の都の市民環境教育・学習推進会議委員会 (3/11・22 遠藤)
 - ・ 青葉区まちづくりコンペ (3/12 紅邑)
 - ・ 市民活動フェスティバル2005「NPOが社会を変えられない5つの理由」/主催:市民活動推進交流フェスティバル実行委員会 (3/19 加藤)
 - ・ 仙台市市民活動サポートセンター/人材育成「NPOいろは塾」(3/16・4/19)
 - ・ 総合型地域スポーツクラブ育成助成金審査会 (3/16 遠藤)
 - ・ シンポジウム「秋田県における指定管理者制度について」意見交換会「秋田県のNPOネットワークを考える」/主催:秋田県 (3/18・19 青木)
 - ・ 太白区まちづくり活動助成事業評価委員 (3/19 遠藤)
 - ・ 「ヤングジョブスポット」フォーラム/主催:(独) 雇用・能力開発機構宮城センター (3/22 紅邑)
 - ・ アフター5セミナー企画会議/主催:多賀城市職員有志 (3/23 加藤)
 - ・ 住民自治条例検討委員会/主催:柴田町 (3/23 紅邑)
 - ・ 「仙台まち美化ネットワーク」世話人会 (3/24 加藤・紅邑)
 - ・ (財) 第32回宮城県地域振興センター評議員会 (3/24 紅邑)
 - ・ 仙台市市民公益活動促進委員会 (3/24 紅邑)
 - ・ 仙台市社会教育委員の会議 (4/12 紅邑)
 - ・ 宮城県議会外郭団体等調査特別委員会 (4/18 加藤)
- 相談、ヒアリング関連
- ・ 経営相談 (3/22・4/19 加藤)
 - ・ ヒアリング:NPOサポートセンター (2/22 青木)

サポート・ご協力 ありがとうございます

●平成16年度会員 (敬称略・順不同、2005年2月21日～4月20日)

(新規会員)

中津涼子

(継続・正会員)

男澤清勝、松山風土研究会

(継続・準会員)

後藤美香(平成17年度会費を含む)、丹野修、萩原なつ子(平成17年度会費を含む)

●企業・団体協力 (五十音順、敬称略)

岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて) 富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

◆NPO経営相談

日程：6/23

時間：13～17時

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

相談料：2500円

(1時間単位、会員500円割引)

予約制です。まずはお電話を！

担当：青木

募集・講座紹介

◆センターサロン

「4億4千万円のゆくえ 宮城県内NPOへの助成金の現状を報告」

日程：6/24

時間：18時30分～21時00分

会場：せんだい・みやぎNPOセンター

参加費：1000円(資料代、交流会費込み)

定員：15名(先着順)

担当：遠藤(智)、小松

●2004年度総会は、9/3(土)！詳細は7月にお知らせします。●

Eメールを
お知らせ下さい

当センターでは、会員の皆さんへのサービスとして、Eメールによる情報提供を実施しております。Eメールを送受信できる環境にある会員の方で、まだメールアドレスを事務局にお伝えいただけていない方は、ぜひご連絡下さい。minmin@minmin.org

せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

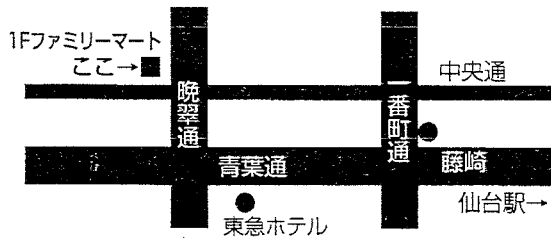
http://www.minmin.org/

会費・寄付はこちらにどうぞ！

郵便振替：02260-3-16325

加入者：せんだい・みやぎNPOセンター

■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15～20分



みんみん編集後記

■らくだのブックで、九州と沖縄に上陸していないとってたら、7月に福岡に行くことになった。沖縄の方、御用があれば伺いま～す。(紅邑)

■「三人寄れば文殊の知恵」最近スタッフ間で、企画について意見をかわす機会が何度かありました。そんな時、思い出したのが忘れていたこの諺。一人ではアイデアが広がらなかつたり解決できないことも、何人かの知恵をもちよれば、想像以上の効果を得ることがありますね。(小松)

■事務局通信「みんみん」の編集は、私と小松州子さんの2人体制で慌ただしく進めてきましたが、年度変わりということもあり、次回から担当が変わります。「小松さん、お疲れさまでした！今度からは執筆者としてどんどん活躍してね！」(遠藤ち)